



区政は区民を幸せにするシステム

荒川区

面積	10.16km ²
世帯数	122,901世帯
人口	219,813人
(うち外国人)	21,493人
予算	1,219億円
職員数	1,815人



荒川区シンボルキャラクターあら坊と妹のあらみい



都内唯一の区立遊園地の「あらかわ遊園」



区民の足として親しまれている都電荒川線とその沿線のバラ



ファッションの街として情報発信している日暮里繊維街

歴史・見所・名所

江戸時代の荒川区は、日光道中の宿場町として栄え、ひぐらしの里、千住大橋等の名所を有し、三河烏菜、汐入大根、谷中生姜を生産する近郊農村としても有名でした。明治時代には、官営千住製絨所等の大工場の相次ぐ設立を契機とし工業地帯が形成されました。さらに常磐線の開通等により交通網が整備され、人口も大幅に増加しました。

太平洋戦争では区内面積の約半分が空襲の被害を受けましたが、戦後は急速に復興し、住商工混在の街並みが形成されました。昭和40(1965)年以降は、産業構造の変化や工場規制等による大工場の区外への移転等が続き、その跡地等が新たな街づくりの拠点となっています。

区内の見所・名所は、都内唯一の区立遊園地「あらかわ遊園」や、区民の足として親しまれる都電荒川線と「花の観光地づくり大賞」に選ばれた沿線のバラ、図書館と吉村昭記念文学館、子ども施設が融合する「ゆいの森あらかわ」、繊維関連の卸・小売店約90店が集積し、ファッション関連の創業支援施設等を備えた「ふらっとにっぽり」が建つ日暮里繊維街、郷土の歴史と文化に触れる「荒川ふるさと文化館」、南千住周辺の奥の細道矢立初めの地ゆかりのスポットなどが挙げられます。

概要

荒川区は、23区の北東部に位置し、区の北東部には隅田川が流れ、南西部に標高約20mの台地があります。面積は10.16km²であり、地形は東西に長く、大部分は起伏はなく平坦です。

区内にはJ R(山手線・京浜東北線・常磐線)、つくばエクスプレス、京成線、東京メトロ(千代田線・日比谷線)、日暮里・舎人ライナーの駅が合わせて8駅あるのをはじめ、都電荒川線や都営バス、荒川区コミュニティバスも運行しており、交通機関が充実しています。

人口は、昭和35(1960)年の28万5,480人をピークに、平成10(1998)年の16万9,394人まで減少を続けてきましたが、その後再開発などにより増加傾向に転じ、令和6(2024)年4月1日現在、21万9,813人となっています。

主要課題・将来展望

区の目指すべき将来像を「幸福実感都市あらかわ」として、物質的な豊かさや経済効率だけでなく、心の豊かさや人とのつながりを大切にしたい、区民一人ひとりが真に幸福を実感できるまちをめざし、次の課題に優先的に取り組んでいます。

～幸福実感都市 あらかわ～

(1) 生涯健康都市

区民が健康で充実した人生を送ることができるよう、「生活習慣病対策」「がん対策」「健康になれる環境づくり」等を推進しています。また、高齢者や障がいのある方が住み慣れた地域でいきいきと安心して暮らし続けることができるよう、「荒川こころばい体操」等の介護予防や生活支援の推進による地域包括ケアシステムの構築、障がい者の生活を支えるグループホーム等の整備や就労支援、手話の普及促進を図っています。

(2) 子育て教育都市

すべての子育て家庭が安心して子育てができるよう、妊娠期から子育て期まで切れ目のない支援を実施しています。中でも、保育環境の充実に努め、質の高い保育サービスを提供するとともに令和2(2020)年4月に開設した荒川区子ども家庭総合センター(児童相談所)をはじめ、子育てに関する相談体制の構築、子どもの貧困対策、在宅育児家庭への支援等を総合的に推進しています。教育分野では、先進的に取り組んできた「英語教育」の充実や各幼稚園・こども園・小・中学校の特徴を生かした「学校パワーアップ事業」や「学校図書館」のさらなる充実等、教育・学習環境の整備に努めています。



奥の細道矢立初めの地のシンボル「松尾芭蕉像」

(3) 産業革新都市

モノづくり産業を中心とした区内の産業集積を生かしつつ、新産業の創出や創業を支援するため、「MACCプロジェクト」等を推進するとともに、「あらかわ就労支援センター」を中核として就労促進を図り、企業支援と雇用確保の両面から地域産業の活性化をめざしています。また、地域コミュニティの中心である商店街の活性化や魅力あふれる個店づくりを推進するほか、ファッション関連の創業支援施設や工房等を備えた「ふらっとにつぼり」や地域の観光資源である日暮里織継街、都電荒川線と沿線のバラ、あらかわ遊園、奥の細道矢立初めの地等を活用し、賑わいの創出に向けた取組を推進しています。

(4) 環境先進都市

2050年度までに脱炭素社会の実現を目指すとともに、環境負荷の少ない持続可能な社会の構築に向けて、区民・事業者・区それぞれが、家庭や職場での省エネルギー対策、ごみの減量化、資源回収と資源の有効活用に取り組んでいます。さらに、家庭や事業所における省エネルギー対策を推進する「エコ助成制度」や、「あらかわりサイクルセンター」における資源の中間処理や環境学習の推進、飲食店・小売店等の事業者と連携して食品ロスの削減を目指す「荒川もったいない大作戦」等を推進しています。また、町屋駅前を華やかなバラで埋め尽くす「あらかわバラの市」の開催や街なか花壇の設置等、花と緑による潤いと安らぎのある街づくりを進めています。

(5) 文化創造都市

伝統文化の継承と新しい文化が調和する街をめざし、芸術文化団体や東京藝術大学との連携、「荒川区俳句のまち宣言」に基づく俳句文化の振興、「豊かな心を育む読書のまちづくり条例」を踏まえた読書環境の整備・充実等を推進しています。また、障がい者スポーツの推進や子ども達のスポーツ活動の促進にも取り組んでいます。地域コミュニティの分野では、町会・自治会に対する更なる支援や生涯学習センターで実施する「荒川コミュニティカレッジ」や各種講座による地域の担い手の育成、「ふれあい館」整備による拠点づくり等により、地域力の向上を図っています。

(6) 安全安心都市

災害に強く、利便性の高い都市基盤の整備を進めるため、不燃化特区制度を活用した、老朽木造建築物等の除却や建替えの促進、全国的にも先駆的な取組である河川水や地下水を活用した「永久水利施設」の整備による地域消火・送水ネットワーク体制の構築、区内全中学校に創設されている「防災部」を始めとする「防災ジュニアリーダー」の育成、通電火災を防止するための「感震ブレーカー」等の普及事業のほか都市計画道路整備や駅前の市街地再開発を着実に推進しています。また、治安の更なる向上を図るため特殊詐欺の被害防止を始めとする防犯対策や、交通事故を一件でも減らすため、自転車事故の防止を始めとする交通安全対策を充実させています。